

若手でも意見を発信できる 風通しのよい環境がモチベーションに 繋がっています。



若手職員4名に、
総務省を志したきっかけや
職場の雰囲気などについて、
語っていただきました

野尻 真帆 Nojiri Maho

行政評価局評価監視官（法務、外務、経済産業等担当）室
（令和3年4月入省・一般職事務系）

渡邊 空 Watanabe Sora

統計局統計調査部国勢統計課指導係
（令和2年4月入省・一般職事務系）

宮崎 泰生 Miyazaki Taiki

自治行政局地域政策課
（令和3年4月入省・一般職事務系）

田中空 Tanaka Sora

情報流通行政局 郵政行政部 貯金保険課
（令和2年4月入省・一般職事務系）

まず、簡単に自己紹介をお願いします。

野尻：行政評価局の野尻です。福井県出身で、大学進学を機に上京しました。特技は、大学時代にやっていた少林寺拳法です。本日はよろしくお願いします。

宮崎：自治行政局の宮崎です。出身、大学も共に千葉県で、現

在は東京都に住んでいます。週末は運動のためにジムへ通い、息抜きをしています。

渡邊：統計局の渡邊です。私は愛知県出身で、大学は滋賀県、現在は東京都に住んでいます。週末は通販サイトで服をみたり、友人とゲームをしたりしてリフレッシュしています。

田中：情報流通行政局の田中です。プロ野球中継を観るのが趣味で配信サービスに加入しています。旅行も好きなので、自由に移動ができるようになったら、色々な所へ出かけたいです。本日はどうぞよろしくをお願いします。

現在はどんなお仕事に携わっていますか？

渡邊：私は、5年に1度実施している「国勢調査」について、地方公共団体への指導に関する業務を担当しています。主に、調査方法等の問い合わせ対応や地方公共団体に調査を依頼する資料の作成を行っています。

宮崎：国勢調査は私も回答しました。時間をかけて、綿密に準備されているのですね。

野尻：私も調査関係で、各府省の業務の実施状況を実際に現場に行き調査し、その業務に対する課題を把握・分析し、改善方策を提示する仕事を担当しています。現在は、『一人暮らし

の高齢者に対する見守り活動』の調査結果を取りまとめています。

宮崎：私は、交付金による地域密着型事業の立ち上げを支援する仕事に携わっています。最近はこの交付金がどの程度地域経済の循環に貢献したかを調査し、結果の公表に向けて準備を進めています。

田中：政策の効果がわかるとやりがいに繋がりますよね。私は、ゆうちょ銀行に関する新商品の認可や、郵便局の金融サービスの監督、独立行政法人の監督等の業務に携わっています。最近では、資産運用サービスに関する認可を行いました。みなさんのお話を聞くと、総務省の業務の幅広さを改めて感じますね。

国家公務員を目指した理由は何ですか？また、総務省を選んだ決め手は何ですか？

宮崎：仕事のスケールの大きさです。より良い国にするために、制度から創りあげていくことは国家公務員にしかできないことですし、やりがいを感じられるのではないかと思います。また、総務省を選んだ決め手は、自治部局では、全国の自治体に地方赴任する機会が用意されているところです。私は首都圏以外に住んだことがないので、どの自治体に派遣されるか、今から楽しみです（笑）

渡邊：私も宮崎さんと同じく、一つ決めた事柄が国全体に波及する影響の大きさに魅力を感じ、国家公務員を目指しました。また、大学では統計について学んでおり、その知識を活かした仕事をしたいと考えていました。統計データは国か地方公共団体に問わず、施策を考える際に重要な根拠となるので、精度の高い統計を提供することで幅広い分野の施策に寄与できると感じ、総務省を志望しました。

田中：スケールの大きさは国家公務員ならではの魅力ですね。

渡邊：ですよね。総務省職員の一員として、大学で身につけた知識を活かしつつ、施策のもつ影響力を考えながら、業務に取り組んでいます。

野尻：国民の皆さんの生活を支える責任ある仕事ですが、だからこそ、やりがいを感じますね。私は学生時代に経験した海外生活を通して、日本での生活がいかに便利で幸せなものかということを実感したことがきっかけです。海外に誇れるこの日本の基盤を支える仕事がしたいと思い、国家公務員を目指しました。また、総務省を選んだ決め手は、座談会でした。職員の方

とお話する中で、人柄の良さと温かさを感じました。

田中：実際に職員の方とお話すると印象が変わりますよね。私も説明会に伺った際に、職員の方々の、穏やかでありつつも仕事に前



野尻 真帆
行政評価局評価監視官
（法務、外務、経済産業等担当）室

向きである姿勢を感じたことが、総務省に興味を持ったきっかけです。また、近年、5GやDXなど、特に世間から注目を浴びている情報通信分野に関わることができるという点も大きかったです。最終的な志望先については、国家公務員以外も含め、長期間迷っていましたが、官庁訪問で出会った職員の方と話をすることで、説明会の時よりも更に強く、仕事に対する熱意を感じ、この職員の方々と一緒に仕事をしたいと思ったことが、国家公務員を目指した一番の理由です。

野尻：少しでも興味がある方は、ぜひ説明会に参加してみてくださいね。

田中：実際に話してみても伝わる雰囲気もありますよね。ちなみに、統計や情報通信の部局は、大学時代に専門的な知識を身に着けた職員がほとんどなのではと思う方も多いと思いますが、実際は、事務系・技術系問わず、別の分野を学んでいた職員がたくさんいます。また、入省してからもしっかり研修があるので、安心して仕事に取り組んでいます。

国家公務員の受験勉強で大変だったことは？官庁訪問に向けてアドバイスはありますか？

渡邊：筆記試験の対策が大変でした。科目が多く、全てを完璧に準備しておくのは難しいので取捨選択しながら、スケジュール管理をして、勉強を進めていくことが大事だと思います。

宮崎：筆記試験はやはりハードですよね。全科目を勉強するのは大変だと思いますので、ある程度割り切って、勉強する科目を絞った方がいいかと思います。

渡邊：優先順位とスケジュールを決めて取り組む力は、現在の業務にも活かされていますよね。

宮崎：はい、業務効率を上げるためにもスケジュール管理は大事だと思います。

田中：私は筆記試験後、短期間で面接対策をしたことが大変でした。本番の面接に落ち着いて臨めるよう、大学のキャリアセンターや地域の就活センター等を活用して、とにかく繰り返し練習を行いました。

野尻：自分とは違う視点から意見をもらえるのはありがたいですよ。私は、予備校に通っておらず、周りに公務員試験を受験する友人もいなかったため、情報収集が大変でした。そのため、積極的に説明会に参加したり、動画サイトやSNSを活用したりして、試験や受験先についての情報を集めました。試験準備も大変ですが、官庁訪問はまた違った大変さ、緊張感がありますよね。

宮崎：ですね。でも、何事も第一印象が重要だと思いますので、身だしなみを整え、大きな声でハキハキしゃべることを意識し



宮崎 泰生
自治行政局地域政策課

て、あまり気負わず、リラックスして臨めば大丈夫だと思います。

野尻：入省すれば、面接官の方も一緒に働く仲間になりますからね。緊張しすぎず、自分のことを知ってほしい、相手や志望官庁のことを知りたいという思いで、自然体で会話を楽しむと良いと思います。

田中：面接官とのコミュニケーションという点でいうと、面接で話す内容を事前に作り込み過ぎないことも大事ですよ。質問されたことに答え、対話を通して、より総務省を知ろうと思う姿勢が大切だと思います。

渡邊：私も、自分が伝えたいことばかりに気を取られずに相手の話す内容を聞き、それに対して回答することが大事だと思います。一日に複数回面接することになるので、ここをこうすればよかったかもと思っても、気にせず、落ち着いて臨んでください。

周りの職員や職場の雰囲気はどうか？また、入省後に感じたギャップはありますか？

田中：穏やかな方が多く、相談しやすい雰囲気で、テレワークや時差出勤など働き方も柔軟に選べる環境だと思います。同じの課の方とは、ランチに行ったり、仕事終わりに飲みに行ったりもします。

野尻：テレワークは思った以上に浸透していますよね。テレワークをする前は、仕事しがづらいイメージがありましたが、実際には、オンラインツールを活用して打合せや研修ができ、スムーズに業務が行えました。また、チャット機能を使った同僚や同期との雑談でリフレッシュしたりしています（笑）

渡邊：私の部署も、賑やかで、議論や雑談をすることもあります。入省当時は職場に馴染めるか不安でしたが、質問をすると何でも快く答えてくれる先輩方ばかりで、すぐに馴染むことができました。また、想像していたよりも風通しがよかったです。入省して2年が経ちますが、そんな私の意見も聞いていただけるので、やりがいにも繋がっています。

宮崎：公務員という、「上司の言うことは絶対」みたいなイメージがありましたよね（笑）

田中：ですね（笑）でも実際に働くと、渡邊さんとおっしゃるとおり、時には若手からも意見を言ったりしつつ、同僚や関係者との議論を重ねながら物事が進んでおり、そういったことがモチベーションに繋がっています。

モチベーションに繋がっています。

宮崎：私が所属する課は、皆さん仲良く、明るい雰囲気なのはもちろんですが、地方公共団体との人事交流により派遣されている職員の方が多いですね。全国に知り合いが増えるのはとてもうれしいです。

渡邊 空
統計局統計調査部
国勢統計課指導係

す。

野尻：職員は地方公共団体に限らず、地方支分部局等も含め全国各地から集まっているので、それぞれの地元の話など業務外の話で盛り上がることもありますよね。コロナが収束したら行きたい場所が増えました（笑）。

将来、携わってみたい仕事はありますか？

宮崎：自治体DXの推進に携わってみたいですね。コ

ロナ禍で行政サービスの効率化はより一層重要になってくると思うので、自治体の負担を軽減する手助けができればと考えています。

渡邊：私は、様々な角度から統計をみたいと思っています。調査や担当する業務によってみえるものが違うので、多くの調査を経験して多角的な視点で統計をみられるようになりたいです。

野尻：私の所属する行政評価局は、管区行政評価局など全国に異動する機会があるので、その地域特有の課題を学び、改善方を考えたいです。また、余暇を利用して観光をしたり、その土地の美味しいものを食べたりすることも楽しみです。

田中：霞が関にとどまらないキャリアパスが用意されていることも総務省の魅力の一つですね。私は、日本のICT分野の海外展開に関わる業務に携わってみたいです。総務省には、国内のみならず、海外赴任のチャンスもあるため、ぜひチャレンジしてみたいと思っています。

受験を考えている方へ、メッセージをお願いします！

野尻：新型コロナウイルス感染症、プライベートとの両立など不安なこともあるかと思いますが、働き方改革のトップランナーである総務省では柔軟な働き方ができるので、安心して受験してください。

渡邊：とても大きな選択になるので、時間の許す限り考えてご自身の納得できる進路をみつけてほしいです。その中で総務省に魅力を感じたら、ぜひ受験してみてください！

宮崎：コロナ禍での働き方に不安を抱えているかもしれませんが、総務省では働き方改革に取り組んでおり、快適な職場環境が整っているので、ストレスなく勤務できると思います。ぜひ、一緒に働きましょう。

田中：私は、初め、国家公務員になろうか悩んでいましたが、説明会で職員の方々の話を聞いて、国家公務員になることを決意しました。少しでも総務省に興味をお持ちの方は、ぜひ説明会にお越し下さい！



田中 空
情報流通行政局 郵政行政部
貯金保険課

1 DAY

1日のスケジュール

放送制度の在り方を考える1日

情報流通行政局放送政策課

横山 洋侃 Yokoyama Hironao

MESSAGE

「ICTを活用し、様々な社会問題を解決しながら、より良い社会を作っていきたい」そんな思いで総務省に入省しました。総務省の業務は幅広く、日々勉強することが多いですが、困った時は上司や先輩職員へ気軽に相談することができ、安心して仕事に取り組んでいます。総務省に興味を持たれた方は、説明会に参加いただくなど、ぜひ総務省に足を運んでみてください！

1 MONTH

1カ月のスケジュール

地方税制度の一端を担う1ヶ月

自治税務局固定資産税課

若山 優希 Wakayama Yuki

MESSAGE

採用説明会や官庁訪問において、先輩職員方の地方行政に対する熱い思い、さらに地方勤務のご経験をいきいきと語られている姿に感銘を受け、私も同じような経験をしたいと強く思い、総務省へ入省することを決めました。業務内容が多岐にわたっているので、きっとやりたいことが見つかるはず。一緒に働ける日を心待ちにしております！

1 YEAR

1年のスケジュール

社会生活基本調査実施に向けた1年

統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室
企画指導第三係

渋谷 恵利花 Shibuya Erika

MESSAGE

統計調査の企画に携わる中で地方公共団体や調査員、調査に回答していただく皆様など多くの方々との協力を得て調査を実施できていると感じています。多くの人に関わる調査をやり遂げるには難しいことが多々ありますが、知識の豊富な上司や先輩から様々なことを学び成長できるやりがいのある仕事だと思います。

10:00 **1日のスケジュール確認**
出勤後、まずはメールを確認します。その後、1日の課内スケジュール等を確認し、その日の流れを把握することで、業務が円滑に進められるよう努めます。

11:00 **上司へのご相談**
明日の検討会でご議論いただく点を上司にご相談します。ご指摘いただいた点を踏まえ、午後、検討会にご出席いただく事業関係者との打合せで再調整します。

15:00 **事業関係者との打合せ**
検討会の論点や流れについて、事前に事業関係者と打合せを行います。午前中に上司にご指摘いただいた点を中心に、最終調整を行います。

17:00 **検討会準備**
明日の検討会開催に向けて、資料の最終確認と会議室の準備を行います。今日は早めに退庁し、明日の検討会に向けてしっかりと休み、万全の状態で臨みます。

1週目 **申告に向けた事前準備**
固定資産税には、総務大臣がその価格等を決定して関係市町村に配分する制度があり、その申告事務に先がけ、提出していただく書類の確認作業を行います。

2週目 **配分作業の開始**
固定資産申告書が続々と提出されてきました。資産の額や、税が軽減できる特例措置などの要件に注意し、誤りが無いように担当者全員で確認作業を行います。

3週目 **価格の決定**
決定した固定資産税は、課税標準額ベースで数十兆円規模！そこから税率を乗じ、実際の税額となります。地方税収への影響を考えると身が引き締まります。

4週目 **通知と分析**
決定した内容について、地方団体や事業者へ通知を行います。資産の増減や特例適用の有無について質問を受けるため、回答や資料を作成します。

4～5月 **調査書類等の作成**
調査世帯へ配布する調査票などの調査書類を作成します。作成する書類等については、前回調査の課題を鑑みて一つ一つ議論しながら作成します。

6～8月 **調査方法の指導や広報活動**
調査の実務を行う都道府県に調査方法を指導したり、キャンペーンサイトの作成など調査について多くの人を知っていただけるように広報活動を行います。

9～11月 **調査実施期間の対応**
調査が始まり調査の対象となった方などからの問合せに対応しながら、調査が滞りなく進んでいるか、トラブルはないか日々状況を確認します。

12～3月 **調査のとりまとめ**
今回の調査の実施状況や課題をとりまとめ、次回調査に向けた改善点などを検討します。同時に調査結果の集計・公表に向けて準備を行います。



25